



患者さん 質問箱

Q

今年もインフルエンザが流行していますが、タミフルなどの副作用が心配でどうしたらよいかわかりません。お薬は飲ませてもいいんでしょうか。(ニュースに踊る新米ママ)

A

インフルエンザは予防策が大事です。今からでもワクチンを接種できる医療機関があればすぐにご利用ください。でももう罹っているとなれば役に立ちません。OCFCでは4つの選択肢と3種類の抗インフルエンザ剤の中から治療法をご家族とご相談の上決定しております。ご説明を行ったという意味で治療に

対する同意書を作成いたしますので昨年より診療に関する時間がかかりますがご理解ください。治療の選択にはご両親のお考えが優先されますが、病状によっては特定の治療法を強く勧めることもあります。新型インフルエンザ出現時では治療法の選択は限られるかもしれません。

1. **無治療で経過をみる**：インフルエンザはウイルス性疾患ですから自己の免疫により4～5日で回復します。症状は高熱、関節の痛み、咳漱が一般的です。ワクチンを接種した方や比較的气元な様であればこの選択は魅力的です。無治療でも10%ぐらいの方に神経症状が出るようです。

2. **解熱剤のみを使用する**：熱が高いととてもぐったりする方も多いようです。そのような方には解熱剤を使用するのもよいでしょう。しかし解熱剤で熱を下げてても病気が続けばまた体温は上昇します。このときが辛いようです。安易に使うことは避けましょう。解熱剤はアセトアミノフェンの使用が原則、小学生以上ではイブプロフェンも安全です。

3. **抗ウイルス剤を使用する**：抗ウイルス剤にはシンメトリル、タミフル、リレンザがあります。シンメトリルは元来パーキンソン病に使われる神経薬で子どもの治療薬としてはむいていません。成人のA型インフルエンザ感染者だけに適応があります。最近耐性ウイルスが多く効果に疑問が出ています。安価であり、成人に対しては使用する意味はあります。

タミフルは2年前から神経症状が出現する可能性があると言われてきました。しかしその出現は非使用時の10%と同じようです。タミフルで神経症状が出るのは体質(遺伝子)で決まっている可能性があります。薬剤の輸送蛋白の異常の可能性があります。過去に使用して異常がなければ安全に使用できる可能性があります。しかしまだ未解決の問題ですので使用に当たっては十分にご注意ください。なお10代の青少年少女には原則的に使用は控えるよう厚生省からの通達があります。リレンザは副反応の報告が少ないですが使用頻度が大変低いことに関連しているようです。しかし吸入法ですので血中濃度の高くなることはありません。しかも効果は直ぐに期待できます。10代以上のかたにお勧めです。

4. **漢方薬の使用**：麻黄湯にインフルエンザに対する効果があるとも言われています。しかしこの薬剤の副反応に興奮があります。内服に当たっては慎重さが必要です。

以上の治療法から一番的した治療法を決めましょう。

インフルエンザ経過中の神経症状：めまい、興奮(飛び跳ねる、駆け出す、飛び降りる等)、幻視、幻聴、うわごと、異常言動、手足の振るえ、痙攣、意識障害などがあります。インフルエンザでの脳炎、脳症の症状の可能性もありますし、薬剤による副反応の可能性もあります。

患者さんのタイプによるお勧めパターン

●**1歳以下の乳児**：インフルエンザワクチンを受け、自然経過で様子を見る。治療薬を使用するとしたらリレンザの吸入。自分で吸入できないので1日2回通院にてクリニックで行います。

●**妊婦さん**：妊婦さんに安全な抗インフルエンザ剤はありません。また感染しても胎児に異常が出る可能性が高くなることもありません。ここはじっと我慢です。妊婦さんは必ずインフルエンザワクチンを受けましょう。

●**授乳中のお母さん**：自然経過、治療薬としてはリレンザが母乳への以降が少ないので推奨できます。

●**10代の青少年少女**：自然経過、治療するとなればリレンザ吸入を選択。

●**高齢者、リスクのある方**：症状に合わせて抗インフルエンザ剤を使用します。

OCFCでは実際に診断しますとパンフレットを使用してご説明いたしております。安心しておかけください。(OCFC院長)

医療法人社団 オー・シー・エフ・シー(OCFC)会

OCFC

Okawa Children & Family Clinic

大川こども&内科クリニック

小児科・内科・アレルギー科(併設 病児保育室 うさぎのママ)

東京都大田区多摩川1-6-16

院長 大川 洋二

診療時間:月～金 午前 8:30～12:00 午後 2:00～6:00

土 午前 8:30～12:00 午後 1:00～3:00

日曜・祝日 午前 9:00～12:00

駐車場七台あり

予約
専用

03-3758-0099

代表
番号

03-3758-0920

E-mail: info@ocfc.jp URL: http://www.ocfc.jp

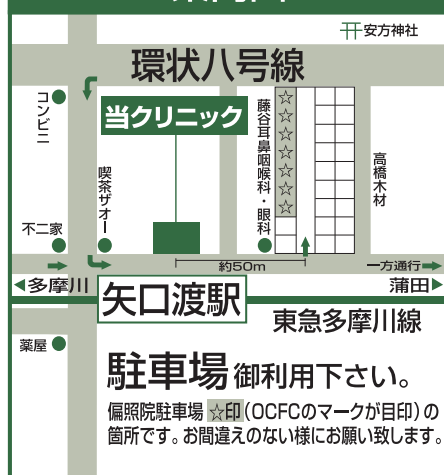
うさぎのママ お問い合わせ

直通
電話

03-3758-0066

E-mail: usagimama@ocfc.jp

案内図



東急多摩川線矢口渡駅前



OCFC NEWS

2008年1月1日号

Vol. 32

大川こども&内科クリニック

2008年花粉状況

今年のスギ花粉飛散量は東日本で昨年の2倍以上が予測されています。これは昨年の7月から8月の気温が記録的な高さとなったためです。このため東日本に居住されている方でスギに感受性がある方は全て花粉症を発症することが予想されます。都内ではスギの初観測日は1月15日前後、飛散開始

日は2月初旬です。1月中旬過ぎからの対策が必要となります。予防薬はこの頃から開始しましょう。

また生活面での配慮も忘れずに対応しましょう。部屋の掃除法、空気清浄機の使用、外出時のマスクとメガネ、帰宅時の着替えや洗顔などです。詳しくはOCFCのパンフレットを参照してください。

年末年始の診療体制

今年もOCFCの診療は28日までは通常診療です。12月31日、1月1日を除いて診療いたします。どうぞご利用ください。

なおインフルエンザなど予防接種も在庫がある限り承ります。

●12月29日 午前9時より午後15時まで
●12月30日 午前9時より午後15時まで
●1月 2日 午前9時より12時(正午)まで
●1月 3日 午前9時より12時(正午)まで

2008年度の予防接種の動き 遅れるHiBワクチン、在庫が心配な日脳ワクチン、今年も流行するか麻疹

前号で1月より開始予定でしたインフルエンザ桿菌(Hib)ワクチンは早くても3月恐らく4月に延期されるようです。厚生省の認可が遅れているためです。このワクチンは1～2歳以下の髄膜炎の原因の多くをしめるインフルエンザ桿菌に対するワクチンです。ウイルスによるインフルエンザとは異なります。接種法はDPT接種と同じ初期接種3回と追加接種です。そのためDPTと同じ時期がよいでしょう。既にDPTを済ませた方は任意の時期に接種します。費用は1回7千円から1万円となる予定です。

改良型日本脳炎ワクチンの実用化が遅れています。今年度中の開始は困難なようです。従来型ワクチンによる接種だけが可能です。しかしこのワクチンの新たな製造はできず、保存されている量だけとなっています。OCFCでは可能な限りワクチンの確保に努めますが、確保できなくなることが予測されます。

お早めに接種されることをお勧めします。勧奨接種が中断して4年目となり、また西南日本の家畜の日本脳炎ウイルス感染率は70%以上です。いつ小児に感染し、日本脳炎を発症(感染者の1%以下)するかもしれません。冬の時期からワクチンの接種を開始しましょう。流行したあとではワクチンの確保はできません。

麻疹対策として4月から中学1年生と高校3年生に2回目のMRワクチン接種が始まります。しかし大田区では12月にも麻疹が発症しています。冬の時期に発病者があることは春からの流行の強い指標です。麻疹に罹患歴がなく、ワクチンを2回接種していない方は是非麻疹ワクチンをご希望されてください。OCFCでは麻疹やMRワクチンを御用意してお待ちしています。

OCFC INFORMATION

感染症 だより

●インフルエンザ

2007～2008年の流行開始は例年よりも3ヶ月早く11月初旬となりました。OCFCでは11月5日に最初の診断を行っています。11月と12月で約139名の診断をしています(12月19日現在)。現在流行中のインフルエンザはAH1N1ソ連型です。2007年の5月まで流行していたインフルエンザと同一らしく、すでに罹患した人はこの冬には罹らない可能性があります。今年のワクチンのA／ソモモン諸島株がこれに対応しますが、一部抗原性が外れています。(効果が低い可能性がある。)しかし新年からは他のインフルエンザ株の流行が危惧されています。ワクチンを接種されていない方で、もしワクチンがあれば接種された方がいいでしょう。症状は例年と同じ急激な発熱と関節痛、ぐったり感も強いようです。治療に関しては様々な考えがあります。OCFCでは無治療で経過をみる場合から、抗インフルエンザ剤を使用する方法、または漢方薬の使用までご説明をして、インフォームドコンセントを作成しております。そのために診察で時間がかかりますがご理解ください。

●今年も流行ノロウイルス感染症

嘔吐下痢を主症状とする感染性胃腸炎は1年中あります。この時期流行する原因ウイルスは昨年も猛威を振るったノロウイルスです。12月はノロウイルスの中で2型が流行し、一部は小型球形ウイルスの仲間であるサポウイルスが原因です。症状は数時間の激しい嘔吐と2日以内の吐気、半数の方には下痢の症状が続きます。発熱は高熱ですが2日ぐらいです。今年の特徴は必ずしも病初期とかぎらず2～3日たってから発熱することもあります。治療は水分摂取が重要です。従来から言われていた嘔吐後の絶食時間は2時間ぐらいにとどめ、薬局で購入できる経口補水液を早期から開始します。少量頻回がポイントです。吐気止めの座薬も上手に使いましょう。OCFCでの患者さんは9月10月が118名、109名に対して11月12月では200名を越えています。予防法として汚染された食器には塩素系の消毒薬で消毒、他のものは熱湯消毒か廃棄処分がポイントです。汚染された布を不用意に乾かすとウイルスが飛散して思わぬ感染が始まります。家庭内で蔓延しますのでご注意ください。

●その他の感染症

溶連菌はコンスタントに発症しています。9月は15名ですが10月18名、11月21名となっています。腎炎を併発された方はいらっしゃいません。抗生剤の内服で慢性腎炎の発症を防ぎます。

マイコプラズマ感染症も相変わらず多いようです。OCFCでは9月から12月までで、50名程度の診断を行っています。この診断では迅速検査が有用で約30分で診断が可能です。全ての方が肺炎に進展するわけではありません。肺炎の危険があれば胸部XPの撮影が必要となります。OCFCで診断された方は全員入院の必要がなく、外来治療で回復しました。一部の患者さんでは細菌感染の併発があり、抗生剤の点滴をおこないました。

麻疹患者さんが12月に受診されました。成人の方で高熱が続き、γグロブリンの治療が必要でした。一番のポイントはこの時期の発症は3月以降の流行と関連があることです。できるだけ多くの方が予防接種を希望されることが大切です。RSウイルスも乳児を中心に大流行のようです。2歳以下で発熱、夜間の呼吸困難が強ければRSウイルスによる細気管支炎を疑います。確定診断は迅速検査でできます。ステロイドの投与で劇的に改善します。

長引く咳や発熱ではマイコプラズマ感染症を疑います。喉の発赤が無い5日以上続く発熱、咳嗽のお子さんには採血にて迅速検査法でマイコプラズマ抗体IgMを測定すると診断にとても有用です。気管支炎なのか肺炎まで進行しているかは胸部レントゲン検査が必要となります。水痘や流行性耳下腺炎も園によって流行がみられているようです。

病児保育室 うさぎのママだより

9月ご利用の方は114名、稼働率80%、キャンセル率は42%です。10月はそれぞれ129名、73%、41%、11月は128名、80%、36%でした。全登録者は50名増えて1157名です。ご利用者の内訳は年齢ですと1歳から3歳までが多いようです。病名からは感冒や気管支炎などの呼吸器感染症がほとんどです。インフルエンザでのご利用も始まりました。病児保育室ご利用希望の方は必ずMRやインフルエンザなどのワクチンを必ず受けといてください。

院長のサイエンティフィックアクティビティ(Scientific activities)

9月は27日世話人として東京城南アレルギー研究会出席。10月11日、12日、13日は横浜で行われた血液学会に出席しました。12月6日には再び来日したアメリカコロラド州のコロラド大学小児科教授E.Gelfandの講演会に出席しました。医科歯科大学では医学部看護学科の講義、病児保育関東ブロック大会では午前中は病児室での急変に関する講義、午後は感染対策の司会を務めました。

病診連携

9月11月11月での検査依頼は5名、東邦大学でのMR検査、大腸ファイバ、東京医科歯科大学での脳波検査です。入院は16名。広尾の日赤医療センターへの川崎病患者の依頼、あるいは東邦大学小児科への感染性胃腸炎がありました。乳児の痙攣は医科歯科大学に紹介、即時入院となりました。紹介受け入れは4名、他の地域からの転入の方で、アレルギーの方や未熟児で誕生された方です。外来紹介は54名。耳鼻科がほとんどで一部皮膚科があります。小児外科疾患では東京医科歯科大学小児外科の大谷先生に多くの方を紹介してきましたが、11月末日をもって退職されました。大変信頼の厚い先生でしたので残念です。

診療時間

栄養相談の予約:代表電話で直接予約ください。
大田区の各種健康診査は火・木・金の午後2:00～4:00にお越しください。検査希望の方は代表電話にて直接予約してください。

●土曜日代診:
佐々木、荒木、富澤、梶原

処置室 から

9、10、11月に処置室に訪れた方は1141名でした。検査を受けられた方は採血の477名、検尿338名、迅速検査の408例です。内訳はアデノウイルス37名、溶連菌166名、マイコプラズマ75名でした。11月以降インフルエンザの検査が増加し114名となっています。レントゲン写真は120名、心電図は58名でした。8月の細菌検査は52名でほとんどが咽頭培養です。治療を受けられた方は延べ1811名です。点滴は127名で肺炎の方はこの点滴による治療で入院の必要がありませんでした。吸入も471名です。鼻吸引が最も多く1141名でした。鼻吸引は中耳炎になるのを防ぎます。鼻吸引だけ希望される方もいらっしゃいます。浣腸は21名、座薬挿入は36名、傷の手当て(火傷を含む)は17名でした。

曜 日	8:30～12:00	14:00～16:00	16:00～18:00
月	小児科・内科(院長・三宅)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長・富澤)
火	小児科・内科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長)
水	小児科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科
	内科・循環器(弓場)		
木	小児科・内科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長)
金	小児科・内科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科(青木)・じっくり外来(院長)
土	小児科・内科(院長・代診)	乳健・予接(1時～2時)	小児科(代診:2時～3時)
	2・4土 神経外来(荒木)	じっくり外来(院長:不定期)(1時～2時)	
	2土 発達心理(藤本)	子育て相談室すくすく(9時～3時)	
	2・4土 アレルギー(大柴)		
日曜・祝日	9時～12時 休日診療・予接(院長・荒木・佐々木)		

乳健:乳児健診、予接:予防接種、ア:アレルギー疾患、慢:慢性疾患

- 栄養相談の予約:代表電話で直接予約ください。
- 毎週日曜日午前予防接種しております(要予約)
- 土曜日のじっくり外来の予定は受付またはホームページでご確認ください。
- 子育て相談すくすくと発達心理(藤本)は直接受け付けにお申し込みください。

■電話・インターネット予約サービスコード

項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード
小児科一般	11#	乳幼児健診	16#	3種混合	21#	水痘	26#
内科一般	12#	健康診断	17#	2種混合	22#	おたふくかぜ	27#
アレルギー/慢性疾患	13#	インフルエンザ	19#	麻疹	23#	日本脳炎	28#
隔離感染症	14#	確認	20#	風疹	24#	その他	29#
予防接種	15#	取消	30#	インフルエンザ	25#	MR	31#

※予約の空き情報は40#でご案内いたします。予防接種(15#)を押した方はさらにサービスコードで希望される項目を指定してください。
サービスコードの確認を、よろしければ0# 誤っていれば1#で行ってください。
※インフルエンザの予約は予防接種枠で希望される方は15#をプッシュして25#を押します。
一般診療枠、日曜・休日で接種を希望される方は19#を押してください。

院内設備・機器

院内設備:隔離感染症室、電話自動予約機(24時間対応)、空気清浄装置(臓器移植にも対応できる)(3台) オゾン空気清浄・防臭装置(2台)、電解水発生装置、消毒用専用スライザー
検査機器:レントゲン装置、デジタルX線画像診断システムFCR CAPSULA、自動解析装置付心電計 血球分析器、CRP/ASO測定機、検尿器、電子スパイロメーター、血糖測定器 経皮酸素分圧モニター、24時間酸素分圧モニター、パルスオキシメーター2001 聴力検査機器、心電図モニター、チンパノメトリー、アトムネオテーブル 顕微鏡用デジタルカメラおよびモニターテレビ、超音波踵骨測定装置A-100EXPRESS